

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立斐太高等学校

学校番号 57

I 自己評価

1	学校教育目標	<p>人間尊重の精神を基調として、知・徳・体に調和のとれた人間性豊かな生徒を育成し、将来国家社会の構成者として、一人一人がその能力と特性を発揮し、有為な担い手となることを目指す。</p> <p>1 歴史と伝統を重んじ、切磋琢磨の精神に則り、自学自習の気風を高揚する。</p> <p>2 愛情と信頼を基盤として、自由にして節度ある人間関係を醸成する。</p> <p>3 健康と体力を増進し、確乎不拔の精神と創造性豊かな実践力を育成する。</p>
---	--------	---

2	評価する領域・分野	◇教務			
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート等の結果から、本校の教育方針への評価の高さが感じられ、入学満足度の高さに繋がっていると思われる。 ホームページ等による保護者への伝達、授業やオンライン講座による学習指導の評価が高くなっていた。コロナ禍の休校や学習時間の確保及び7月豪雨時の対応が評価されたと思われる。 今年度からのオンラインを用いた授業視聴の開始や一人一台タブレットが導入された。ICT機器を利用した今までよりも効果的な授業形態を研究し教育内容の充実を図る必要がある。 			
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇新しい教育課程についての実施科目、内容、授業形態、学習評価方法について研究し、令和4年度からのカリキュラム構築及び学習評価を立案する。 学習指導要領や大学入学共通テスト出題内容などを研究し、変わりゆく教育環境に応じた取組と授業改善を図る。 ◇コロナ禍の休校及び災害時について、生徒の学習機会を保障する。 学校再開時の授業時間の確保やICT機器を用いた家庭学習支援により生徒の学力向上を図る。 			
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程研究委員会をはじめとする各種委員会、学年会、教科会において情報共有しながら、教育課程や指導計画、行事を検討する。 教務部を中心とした教員により、ICT活用グループメンバーを組織し、教員間及び生徒・保護者への迅速な運用技術・情報伝達を行う。 			
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7	達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>(1) 教育課程委員会及び学習指導委員会等で、調査の分析結果等を元に今年度の教育内容の検証と反省と行い来年度以降の教育計画や指導計画に活かす。</p> <p>(2) 行事の精選及び前期45分×8時限授業による授業時間の確保。</p> <p>(3) 休校時等、学習プラン及びWEB会議システムを用いた学習支援の実施。</p>		<p>(1) 学校評価アンケートの結果分析</p> <p>(2) 授業評価の結果分析</p> <p>(3) 家庭学習時間調査</p> <p>(4) 外部模擬試験等の結果</p> <p>(5) 授業の学習進度調査</p>			
8	取組状況・実践内容等	9	評価視点	10	評価
<ul style="list-style-type: none"> 各教科、学年会で調査結果等の分析を行い、教育課程委員会、学習指導委員会等、各種委員会で改善のための課題を発見し具体的な計画や指導方針を立てている。 夏季休業の短縮、前期の45分×8時限授業を行った結果、前期末の調査より例年の学習進度となった。 コロナ禍の休校中及び7月豪雨時に、WEB会議システムによる学習支援等を行った。 		<p>①教育課程や指導計画等を積極的に見直し改善に向かえたか。</p> <p>②学校全体として組織的に取り組めたか。</p> <p>③生徒の深い学びを促す授業が展開できたか。</p>		<p>Ⓐ B C D</p> <p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>	
11	成果・課題	<p>○各種委員会等で今年度までの教育活動の課題や進学に対する情報を分析し、来年度以降に向けた教育活動に対する課題解決に努めることができた。</p> <p>▲新しい教育課程の実施を前に、現在も大学入試に係る科目が決まっていない。そのため、計画時にはあらゆる状況を見据えたカリキュラムの作成が必要になる。</p> <p>○WEB会議システムを用いた学習支援の実施することができた。気象警報時においても、学習支援をすることが可能となった。</p> <p>▲オンラインを用いた学習支援についてより効果的な手法を研究する必要がある。</p>		<p>総合評価</p> <p>Ⓐ B C D</p>	
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> 変わりゆく教育環境の中で、3年間でどのような生徒を育成するかについて教員間の共有を図る。 ICT機器を用いた効果的な授業形態について、各教科で実践研究をしていく。 大学進学を見据えた、令和4年度からのカリキュラムを決定する。 				

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年6月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <p>学校評議員会より</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症の影響下、授業時間の確保及びオンライン学習支援の有効活用に努めてほしい。また習熟度授業について、各生徒が納得できるよう配慮をお願いしたい。 学校行事の中止や変更はやむを得ないが、検討過程の中で、是非生徒の声を反映してほしい。 コロナ禍の状況下、「自分で考え、自分で判断し、自分の責任で行動すること」が大切であり、冷静な情勢把握とそれに備える強さと知性を身に付けなければならない。そのためには、学問を身に付けることが必要であり、学問を学び続ける姿勢が求められている。

2	評価する領域・分野	◇進路指導	
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者対象アンケートでは、進路に関する情報提供に関して概ね93%以上の肯定的評価を得ている。今年度は、特に新型コロナに対する対応や共通テストに向けて得た情報を生徒・保護者宛に発信したことが理由であると考えている。来年度もコロナの影響が懸念されるが、大学入試の情報をはじめ、進路で得た情報についての教員間の共有、保護者への情報提供を継続して行い、進路に関するアドバイスについても肯定的な意見がいただけるよう努めていきたい。 	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通じて、地域社会に貢献できる学力・能力をもった人材育成を目指す。 ・キャリア教育に力を注ぎ、能力・適性を生かした自己の在り方・生き方を考えさせる。 ・一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、主体的に進路を考え、目標を達成できるようサポートする。 	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部内との協力体制の強化 ・学年会や他分掌との連携を強化 ・地元企業や、本校卒業生等との連携 	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	<ul style="list-style-type: none"> (1) FRHの取組 (2) 講座、説明会及び大学見学会等の開催 (3) 看護体験、入試研究会等への参加 (4) インターンシップ及び地元企業ガイダンスの開催 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒及び保護者のアンケート及び感想文 (2) 生徒のアンケート (3) 生徒の感想文 	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・FRH：地域活性化プログラム（2年）地域のもつ課題を発見し、問題解決に向けた提案を行う。 ・FRH：社会人講師による講話（2年）：地元で働く社会人講師の講話から地域の魅力や課題を認識。 ・FRH：コミュニケーション活動（1・2年）：英語ディベート講習及びエンパワーメントプログラム（希望者）による英語コミュニケーション能力の育成での実践。 ・職業講話（1年）：卒業生の社会人から、地元での「起業」をテーマにした講義を実施。 ・富山大学医学部看護学科の教授による講話 ・保護者対象の説明会や情報提供、学年集会等での新入試についての周知を例年以上に実施。 ・希望者の難関大入試研究会(オンライン)等へ参加。 ・3年の一部に地元企業ガイダンスに参加。午前中に「起業セミナー」を実施。 <p>※学部学科説明会、東大見学会、インターンシップ、海外研修は新型コロナウイルス感染症により中止。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①職員が組織的に取り組めたか ②生徒が積極的に参加したか ③生徒が満足できたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>
11	<p>○FRHの地域活性化プログラムでは、地元企業や大学等の協力を得ながら、生徒の課題発見・解決能力を育成することができた。</p> <p>○FRHのコミュニケーション能力育成プログラムでは、英語コミュニケーション能力だけでなく、グローバルな視野も含め、育成することができた。</p> <p>○職業講話、地元企業ガイダンス等で、進学した後の学びやUターン就職、起業も含めたキャリア形成についての情報を与えることができた。</p> <p>▲大学入学共通テスト1年目を終え、これまでのセンター試験との違い等を分析し、次年度以降に活かしていく。今後も情報収集と対応を強化したい。</p>		<p>総合評価</p> <p>(A) B C D</p>
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通テストを初めとした大学入試への対応や新カリキュラムと指導を見据えた受験指導を、学年会や他分掌と連携して行う。 ・3年間の進路指導計画に基づいた進路指導の共有。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年7月

【意見・要望・評価等】			
・学校評価アンケートより			
進路情報の提供に関する肯定的評価	(生徒：95.0%	保護者：93.0%)	
進路指導に関する肯定的評価	(生徒：95.0%	保護者：84.3%)	

2	評価する領域・分野	◇生徒指導	
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なモラルやマナー、服装や身だしなみの指導について肯定的に捉えており、生徒自身も自覚を持って行動している。 交通安全や防犯、防災面についての指導、情報の周知徹底について十分理解されている。 多様な生徒やその家庭に対して、幅広く対応できる体制や校外との協力関係など周知を図る必要がある。 	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇高等学校教育指導の方針と重点に則り、様々な教育活動を通じて、生徒一人一人に規範意識と倫理観を体得させ、明るく活気に満ちた校風を樹立できるように指導する。	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 全職員による登下校の交通安全指導 学年会、教育相談部との情報交換、共通理解の徹底 外部機関（高山署、SC、市役所等）や地域との連携強化 	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 交通安全指導と校門指導での遅刻の防止 (2) 生徒との対話を通じていじめの未然防止 (3) 講話・講習会による情報リテラシーの醸成 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 5分前登校の呼びかけ（8時5分） 自転車安全運転チェックシート（年2回） (2) クラス居心地度調査（年3回実施） (3) 情報モラルチェックシート（年3回実施） 	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	<ul style="list-style-type: none"> 朝の交通安全指導（校門・高山署交差点および日枝神社、八幡神社、高山西小付近で実施） MSLによる高山署と共同の啓発活動（交通安全や防犯） クラス居心地度調査 生徒へ情報モラルについての通信や広報 	<ul style="list-style-type: none"> ① 過去のデータとの比較。外部からの電話対応 ② 生徒・保護者による学校評価 ③ アンケート結果の比較 	<ul style="list-style-type: none"> A <input checked="" type="radio"/> B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D
11	成果・課題	総合評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ○交通事故については、命に関わるような大きな事故はなかった。交通マナーについては、さらに指導を継続していく必要がある。 ○生徒は落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っており、服装や身だしなみについて生徒の自覚が見られる。 ▲情報モラルについては、拡大・多様化するスマホの利用について、教員も研修を積み、徹底した生徒への指導が必要となってきた。 ○近年、豪雨や台風による災害が顕著となり、また大規模な火山や地震災害も懸念される。生徒の自主的な防災能力の涵養を多面的に考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> A <input checked="" type="radio"/> B C D 	
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル、交通安全に関する指導は年間を通じて指導する必要がある。また、それらの指導を生徒の自律的な姿勢の醸成につなげたい。学校近隣での特に登校時の自家用車での送迎について、繰り返し保護者等に自粛依頼をしているが、徹底されていない。大きな事故が起きないように繰り返しお願いしていきたい。 急傾斜地崩壊対策事業が今後も継続される。これからも校内での生徒の安全確保に万全を期したい。 コロナ対応について生徒、保護者、職員ともに初めてのことで苦労があった。今後の収束に向けての見通しは不透明だが、共通理解を基本に協力して対処したい。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年6月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <p>学校評議員会より</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が自主的に自覚を持って活動していることが伺える。今後ともこの雰囲気を継続してほしい。 (アンケートから) 生徒1人1人への個別の対応について、保護者からの意見としてよりきめ細かい対応を望んでいる。
--

2 評価する領域・分野	◇特別活動		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は生徒を中心として全校体制で取り組まれている。 ・学力の伸長だけでなく、健全な身体、豊かな心の成長を含めた人間を育成しようとする校風が感じられる。 ・生徒会活動や部活動は活発に行われており、生徒の充実度も高い。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇コロナ過での感染予防対策を講じた学校行事の実施。部活動ガイドラインの遵守、部活動数の適正化を図る。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の実施について他分掌や学年など職員間での情報共有を図るとともに、生徒会と検討する。 ・部顧問会議等により部活動数や顧問数の適正化を図る。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 学校行事について職員間および生徒会との検討 (2) 他校の取り組みや現状で可能な活動などの情報収集	(1) 学校評価アンケートの結果 (2) 生徒会執行委員・議会等の意見集約		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行委員が全校生徒の意見を収集し、行事などについて職員と協議している。 ・部活動加入率が95%を超え、活発に活動している。また、複数の部が全国大会に出場している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に諸活動に取り組んでいるか。 ・部活動は適切に運営されているか。 	A (B) C D (A) B C D (A) B C D	
11 成果・課題	○コロナ過を踏まえた学校行事について生徒会を中心に検討し、協議を重ねた結果、体育祭にかわる学年対抗球技大会を実施することができた。 ○コロナ過で十分な活動ができない中でも、体育系・文化系ともに全国大会出場するなど複数の部が優秀な成績を収めた。 ▲生徒数減にともない、本校に適した部活動数を検討していく。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案			
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度中止した学校行事について、新型コロナウイルス感染予防対策を講じたうえで実施できるよう今年度中から職員と生徒会により検討を進める。 ・部顧問会議などの会議において、本校の適切な部活動数について検討を進める。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年6月26日

【意見・要望・評価等】 学校評議員会より <ul style="list-style-type: none"> ・教員の働き方改革を踏まえて、常態化している部活動指導の負担を考慮した部活動指導のあり方を検討してはどうか。 ・コロナ過における学校行事の中止などはやむを得ないが、実施する場合は検討過程の中で生徒の声を反映してほしい。
--

2	評価する領域・分野	◇教育相談																		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生がいる」に関して、昨年度より増加し、90%以上の生徒が肯定的に評価している。 ・「学校では教育相談係が個々の生徒に対して適切な指導を行っている」に関して、昨年度と同じく70%以上の保護者が肯定している。また微減したものの、わからないと答えた保護者が18%おり、広報活動が必要である。 																		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「教育相談の心を校内に広めよう」(校内支援システムの確立と充実)職員会議、学年会、教科担任会議、職員研修等による教育相談体制の充実と連携強化を図り、全職員による教育相談を実践する。																		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートチームを適宜編成し、具体的な支援方法を研究する。 ・教員間の情報交換や共通理解を深める。 ・専門家によるスクールカウンセリングを活用し、支援の充実を図る。 ・心理検査「アイチェック」を実施し、クラスの把握や生徒支援に役立てる。 ・人権教育を推進し、広く人権に対する意識の高揚を図る。 																		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																		
	(1)担任や学年会および関係分掌等との連携を積極的に実施。 (2)生徒や保護者へのサポートの実施。 (3)外部機関との連携強化。 (4)アイチェックの結果の活用。	(1・2・3)意思疎通の状況、生徒支援状況。 (4)検査の分析と利用状況の分析。																		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																	
	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や学年団と連携、情報交換を行った。 ・生徒や保護者との懇談を適宜実施し、支援を行った。 ・生徒指導部や保健室と情報交換をし、連携を行った。 ・職員会議等を利用し、情報交換と支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援体制は適切であったか ・生徒や保護者の思いに叶うものであったか。 ・連携がとれ、情報交換や協力体制ができているか。 ・情報交換や協力体制がとれているか。 	<table border="0"> <tr><td>(A)</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>A</td><td>(B)</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>(A)</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>A</td><td>(B)</td><td>C</td><td>D</td></tr> </table>		(A)	B	C	D	A	(B)	C	D	(A)	B	C	D	A	(B)	C	D
(A)	B	C	D																	
A	(B)	C	D																	
(A)	B	C	D																	
A	(B)	C	D																	
11	成果	○悩みを抱えた生徒に対して、関係職員との連携を取りながら支援を行うことができた。 ○積極的に専門家との連携をとることができた。(スクールカウンセラーの活用)		総合評価																
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・▲より良い支援体制作りと支援の充実を図る。 ・▲今年度は、コロナによる長期の休校からのスタートだったため、入学したばかりの1年生のなかには、高校生活のスタートが思うように切れない生徒が見られた。より手厚い支援が必要。 		A (B) C D																	
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・担任・生徒・保護者への支援体制について継続的に検討、研究を行う。 ・配慮を要する生徒の早期発見とその生徒への適切な対応と支援に努める。 ・コロナ禍での不安や困り感を抱く生徒への支援に努める。 																		

II 学校関係者評価

実施年月日 : 令和3年1月26日

【意見・要望・評価等】

学校評議員会より

- ・コロナ禍による将来に対する不安を抱く生徒へのより細やかな対応・支援が必要。
- ・個々の生徒の人格を尊重しながら、社会の変化に即した生徒への対応を今後も継続すべき。

2	評価する領域・分野	◇図書広報		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：感染防止対策に取り組みながら、生徒への読書支援、学習支援を行っている。図書館をよく利用する生徒と利用しない生徒の二極化が課題である。 ・広報：アンケートによれば、本校の情報発信力・各種広報活動（オープンキャンパス等）については概ね高い評価をいただいている。 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇図書：生徒を中心とした図書委員会活動を支え、図書館の環境を整える。 ◇広報：多岐にわたる広報活動のスムーズな運営と内容の改善。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：各クラスの図書委員の活動を通じ、多くの生徒に読書を勧める。ホームルーム・授業での図書館の活用を増やす。 ・広報：他分掌との情報の共有と全校体制での取組み。 		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> ・図書：生徒の読書活動を促すために、行事等との有機的な連携を図る。また、図書館の利用簿を見直すなど、先生方にも図書館の利用を働きかける。 ・広報：分掌内及び他分掌との綿密な情報共有。 		<ul style="list-style-type: none"> ・図書：各クラスの図書の貸出し数の確認、図書館の利用頻度の確認。 ・広報：行事ごとに実施する各種アンケート結果の分析。 		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・図書：イベントの開催や掲示板の活用による図書館のPR、学級文庫の設置、ビブリオバトルへの参加、LHRや授業での図書館の活用の推進。 ・広報：学校説明会の資料作成、学校案内の作成オープンキャンパス・中学校一日の実施。 		<ul style="list-style-type: none"> ・図書：生徒が中心に運営できたか。また、図書館の積極的な使用がなされたか。 ・広報：昨年度の反省を踏まえより効果的なPR活動ができたか。 	(A) B C D (A) B C D (A) B C D	
11	成果・課題	○図書：図書部門においては、司書を中心に生徒が主体の読書活動を企画・運営したほか、ビブリオバトルではすべての学年から県大会に出場するなど生徒の積極的な取り組みがみられた。 ○広報：今年度は、コロナ禍の関係で、広報活動のなかでも中学校説明会やオープンキャンパスにおいて、その運営方法及び内容の大幅な見直しを迫られ対応に苦慮した。幸い本校のICT環境を最大限利用して効果的な広報活動ができた。また、各分掌及び全職員の協力のもと全校体制で実施することができた。特筆すべきものとして、生徒会執行部の活躍があげられる。アンケート結果でも最も評価が高かった。 ▲読書活動のより一層の推進と広報活動の内容の充実。ホームページのコンテンツの充実。		総合評価 (A) B C D
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：図書館が生徒にとっても先生にとっても居心地の良い空間であることを確保しつつ、なるべく多くの生徒が図書館を訪れ、読書に励むような環境作りの工夫をしたい。 ・広報：広報活動全般については、行事ごとのアンケート結果を詳細に分析し、その内容改善を図って斐太高校の魅力をこれまで以上に伝えていきたい。HPは、学校評価アンケートで、昨年度よりも非常に高い評価をいただいたので、今後も、求められる情報の迅速な情報提供に努めたい。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月26日

【意見・要望・評価等】

学校評議員会より

- ・「紙媒体の文献に直接触れることの重要性認識すること」また「大量の書籍に包まれた空間で得られる安堵感という感性を持つこと」。この二つは知性を育むために大切である。

2	評価する領域・分野	◇保健厚生			
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ対策について、その時々状況に応じた適切な対応がとれている。 ・校内美化について、保護者や生徒を対象としたアンケート結果からは昨年同様概ね良い評価を得ているが、階段の埃については継続的な取り組みが必要である。 			
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇感染症の感染拡大防止のために、冷静かつ適切な対応を徹底させる。 ◇校内美化を推進し、学習環境等を整える ◇生徒の自主的な健康管理を促進するための情報提供を図る			
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会による保健委員会や厚生委員会の活動促進 ・保健だよりなどの配付物や掲示物によるなどの広報・啓蒙活動 			
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7	達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 毎日の健康チェック（生徒・職員）、消毒用ボトルの校内設置、手すり等の消毒等 (2) 保健だよりや掲示物、職員研修（救急救命法）の充実、生徒情報の共有 (3) 厚生委員によるゴミの分別収集確認 (4) 保健委員・厚生委員による点検の実施 (5) 安全点検の実施と修繕依頼等		(1) 担任等による確認・指導、感染状況の把握 (2) 生徒の健康管理（出欠状況、検診後の治療等）の確認 (3) ゴミの分別等の状況確認 (4) 日常点検および点検表の集計・対応（修繕や補充等）		
8	取組状況・実践内容等	9	評価視点	10	評価
	・健康チェックによる状況の把握、感染防止対策の実践 ・保健だよりの発行、救急法講習会の実施、生徒の検診結果等の情報提供 ・全校体制で臨む掃除の実施、厚生委員を中心とするゴミ分別の点検・指導等 ・点検により指摘された修繕箇所等についての修繕や補充依頼		①感染状況の把握等 ②生徒の健康管理（出欠状況、治療等）の確認 ③点検結果の考察、日常点検、ゴミの分別状況の確認 ④修繕等、改善状況の確認		(A) B C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11	成果・課題	○毎日の健康チェックの実施、保健だより等を通じてマスク着用や消毒、「密」の回避など感染防止対策の働きかけなどにより、現在のところ新型コロナの感染は確認されていない。また、インフルエンザなどの罹患も例年と比較して少ない状況である ○保健委員や厚生委員は日常の活動や行事における活動に積極的に取り組むことができた ▲救急法講習会について、受講対象者の検討を行う ▲階段等、埃が目立つ箇所の改善		総合評価	(A) B C D
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策について、気を緩めることなく引き続いて感染予防の徹底を図る ・保健だよりなどの広報活動を通じて、生活習慣の確立を図り自主的な健康管理の促進に努める ・救急法講習会受講の意義を伝え、受講対象者全員の受講を促していく 			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年6月26日

【意見・要望・評価等】

- ・感染症感染予防対策について、職員・生徒に対して感謝とねぎらいの言葉をいただいた
- ・今後しばらく続くと思われるコロナ禍の中で、引き続き適切な対応・活動を行っていく

2 評価する領域・分野	◇ 渉外			
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、多くの保護者が参加する学校行事の文化祭・体育祭・マラソン大会が中止となった。 ・育友会関係の行事の多くが中止になったが、実行委員会は例年通り開催され、熱心な討論が行われた。 ・集まったの育友会総会はできなかったが、資料を郵送し、アンケートでも育友会、部活動後援会の経費の執行の公表について理解がなされている。 ・有斐会総会、学年代表会が中止となったが、11月に理事会を再開し有斐会報も発行に向けて準備を進めている。 			
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会及び同窓会の活動の見直しを図る。 ・各行事の準備、運営を確実に進行。 			
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・参加意欲を高めるための方策を個々の行事に即して検討していく。 ・行事後のアンケートを分析し、会員の要望を明らかにしていく。 			
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
<ul style="list-style-type: none"> (1) 文化祭バザーの成功のため、育友会実行委員会と連携を取りながら実施する。 (2) P Tフォーラムの事前アンケートの実施と講師選考、進行方法の検討により参加意欲を高める。 (3) 有斐会理事会の予定を早めに決め参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 準備・運営が確実に進んだか。 (2) 事前アンケートの質問に答えられたか。活発な意見交換と保護者の満足度 (3) 有斐会の実質的な活動が行われたか。 			
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価		
<ul style="list-style-type: none"> ・4月の休校、休校の延長と状況が変わる中、育友会総会をいかに進めるか検討を繰り返し、資料の郵送による書面審議に実施した。 ・P Tフォーラムは中止も考えられたが、早い時期に配信による実施を決定した。ライブから録画か、学生の参加方法など、ぎりぎりまで検討しながら、学生のリモート参加による録画配信を行った。事前、事後アンケートはすぐメールで行った。 ・文化祭バザー、県外学校訪問、マラソン大会が中止になった。 ・育友会報は特に1年生の生徒・保護者に学校の事を知らせたいという実行委員の意向で1号が発行された。 	<ul style="list-style-type: none"> ①計画的に取り組んだか ②実行委員会や分掌で検討し、状況の変化に応じて対応できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> (A) B C D (A) B C D 		
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○育友会総会は書面審議は決まったが休校の延長により資料が郵送となった。先生方の協力で郵送作業ができた。 ○P Tフォーラムは、評判の良い行事で、実行委員の意向で実施した。状況の変化に合わせて検討を繰り返し、最善の方法で実施できたと思う。アンケートをすぐメールで行ったのも効率的であった。 ▲来年度のP Tフォーラム会場を予約したが現状では会場での実施は難しい。 ○育友会報は、行事の記事がない中、例年の行事や学校の現状を知らせる機会となった。 ▲文化祭バザー、県外学校訪問は、例年実行委員の結束を高める機会になっているが中止となり、会議だけの一年になってしまった。 ▲行事の中止により、経験豊富な3年保護者の実行委員が交代する来年度に向けてのノウハウの引き継ぎが不十分である。 		総合評価 (A) B C D	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も行事の制約が考えられる。育友会総会資料の発送は、今年度は休校中であつたが、来年度は授業と並行して作業が考えられるため検討が必要である。 ・P Tフォーラム会場が現状では入場制限があり、方法、実施の決定時期などの検討をする。 ・食べ物のバザーが来年度実施可能か難しい現状においてノウハウの伝承方法やバザーのあり方を考える。 			

II 学校関係者評価

実施年月日： 令和3年1月26日

【意見・要望・評価等】

学校評議員会より

- ・P Tフォーラムをオンラインで配信したことを評価したい。今後、Zoom会議などの導入によって多くの関係者に参加していただくことを検討してもよいのではないか。

2	評価する領域・分野	◇探究活動推進			
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究を有意義と考える生徒が多く、コロナ禍であっても授業以外での学習の機会を得ることができた。 ・地域活性化プログラムでの生徒の取組成果を発表会を通じて伝えることができ、プレゼンテーションについてもよい評価を頂いた。今後のリーダー育成への期待も評価課から受けることができた。 ・コロナ禍の中で、地域に出る機会が減ったためか、ボランティア活動の機会、その重要性を与えることについては課題を残した。 			
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇総合的な探究（1，2年生）、総合的な学習（3年生）の推進、またFRH（地域共創フラッグシップハイスクール）事業の活動推進による課題発見能力、課題解決能力、リーダーシップの育成をめざす。			
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動推進部の体制整備。 ・学年会、他分掌、地域の外部機関との連携。 			
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
	(1) 「総合的な探究（学習）」の計画にもとづいた学年団、教科段との連携 (2) 地域の外部機関との連携を取り、学校外での生徒の活動の場を確保する。	(1) 学校評価アンケートの結果分析 (2) 生徒アンケート (3) ルーブリック評価に基づく生徒のレジュメ、プレゼン			
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価		
	<ul style="list-style-type: none"> ・各調査の結果分析を行い、分掌内、学年会での意見交換を通じて課題を発見し具体的な計画や指導方針を立てている。 ・外部機関から意見、アドバイスを受け地域での生徒の活動の確保と向上に努めている ・FRH：地域活性化プログラムでの調査研究 飛騨高山大学連携センター相談会 飛騨高山大学連携センタープレゼン指導 エンパワーメントプログラム 海外研修（今年度は中止） Hida, T-Academia発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ①諸行事を滞りなく実施することができたか。 ②学校全体として組織的に取り組むことができたか。 ③生徒が主体的に活動する場を設定することができたか。 ④外部機関との連携を取ることができたか。 	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D		
11	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度の実績を踏まえながら、分掌内での役割分担を進めることができた。 ○「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」のオンライン発表会、飛騨学会など生徒の発表の場を増やすことができた。 ▲新型コロナの影響（地域でのフィールドワーク、エンパワーメントプログラムのオンライン実施など）に対して迅速かつ十分に対応することができなかつた。 ▲アンケート調査、インタビューの方法などを生徒、教員に十分伝えきることができず、実施までにかかなりの時間を要した。 ○外部機関との連携を継続して図ることができた。 ○3年生が推薦入試、小論文などに地域活性化プログラムの活動を参考にする姿が増えた。 ○新型コロナの影響があったことで、生徒が現在の課題を当事者意識をもって考える姿が増えた。 ○重点活動グループをはじめ、意欲的に取り組む生徒が増えた。 		総合評価 A (B) C D	
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌内での共通認識、作業の共有に努め誰でも業務に携われるように体制を整備する。 ・今年度の実績を土台にオンライン、一斉メールなどを有効活用し効率よく業務を進める。 ・外部機関との情報交換を密に取りながら生徒にその内容を還元していく。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月26日

【意見・要望・評価等】

- ・「高山市若者等活動事務所 村半（むらはん）」を活用しての活動や、「飛騨高山 まちの博物館」での英語での案内ボランティアの活動なども検討してみてもどうか。
- ・英語ディベートの重要性を感じている。将来の日本を担う高校生にとって、不可欠なものとする。継続的かつ積極的な展開を希望する。
- ・SGH活動やFRH活動について、これまでに発表会の案内をいただいているが、参観できていない。過去のものも含めて参観できる資料があれば拝見したい。